

氏の書によって初めて知られている。それを鳥井氏らが大分県教育員会で大分県先哲叢書として第1巻から第3巻に監修者として初めて世に出したものである。

良沢自身は研究生活のみで自分では何も出版していないので、弟子の玄沢が代りに蘭学の普及・発展に務めた。良沢は『ターヘル・アナトミア』を翻訳した医師としての仕事のみならず大変広範の蘭学の分野の紹介を研究している。しかし、

それを世に出さなくても玄沢という良き後継者によって日本全体に広めた。正に蘭学の著者としての良沢を大変わかりやすく解説した好書であると思う。これから医学史を学ぶ人のみならず一般の歴史に関心がある人にも是非読んでもらいたい。

(川罵 真人)

[大分県教育委員会, 〒870-0021 大分県大分市府内町3丁目10-1, TEL. 097(506)5617, 2015年3月, B6判, 159頁, 非売品]

## 書籍紹介

### 浅田宗伯 編著, 渡辺浩二 翻字校注 『翻字校注 医学典刑』

本書は浅田宗伯の著になり写本としてのみ伝わる『医学典刑』の、渡辺浩二氏による翻字校注本である。宗伯の生誕200年にあたる本年の1月に出版された。

翻字校注者の渡辺浩二氏は浅田宗伯研究を精力的に進めている医師で、本書の刊行もその一端として平成26年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)を得て行われた。

原著者の浅田宗伯(1815~94)は幕末・明治の漢方医。信濃筑摩郡に生まれ、名は直民のち惟常、字は識此、号は栗園、宗伯は通称。江戸で名医・名儒らと交流し、臨床医として大いに名声を博した。安政2年(1855)御目見医師となり、慶応元年(1865)にはフランス公使レオン・ロッシュの難症に奏効、翌年奥医師・法眼。明治12年(1879)明宮(大正天皇)の生誕にあたり尚薬を拜命。漢方存続運動にも活躍した、当時の漢方界の巨頭である。

『医学典刑』は漢方医学の規範書。5巻。明治4年(1871)喜多村直寛、岡田昌春の各序を附す。各巻の内容はそれぞれ、習業(周から清までの医学教科課程)・診視(診察規範)・治例(治法の規範)・薬案(医案規範及び例)・規箴(医師の訓戒)について医書を抄出して述べ、時に宗伯の按語が

附されている。渡辺浩二氏の調査によると、引用書籍は122(本邦20, 中国102)に及ぶという[渡辺浩二:浅田宗伯編著『医学典刑』引用書籍について, 日本東洋医学雑誌, 66(別冊), 2015]。本書は写本として伝わり、東京大学総合図書館(浅田宗伯旧蔵)、武田科学振興財団杏雨書屋(服部甫庵旧蔵)、京都大学図書館(富士川游旧蔵)の所蔵本が知られる。このうち京大蔵富士川本は『必読・漢方医学余璧叢書』(オリエン特出版社, 1990)に影印収録されている。

渡辺氏の解題によると、「富士川本(明治4から8年頃写)及び服部本(明治8年9月から10月写)は浅田文庫本を写しており、浅田文庫本は富士川本と較べて2割弱分量が増量され、さらにその増量分は全て宗伯自筆によるものであることが判明した」と東大蔵浅田本を出自・分量の双方から最善本とし、この度の翻字は東大蔵浅田本を底本としている。校注は対校を頭注に記したもので、杏雨書屋蔵服部本・京大蔵富士川本との異同、および本文中の引用文を典拠文献にあたり調査した対校記事である。

また本書には、『勿誤堂塾規』『医学読書規』の翻字、書名篇名人名索引が附録として収録されている。

明治維新以降、政府は様々な面で西洋化を押し進め、医学においても西洋医学を採用。明治7年(1874)に医制が定められ、翌8年には西洋医学による医師開業試験が実施された。このような時代背景の中で『医学典刑』は編まれた。本書の喜多村直寛による序には次のようにある。「今国家布維新之政、行更張之令、想於我医教、当必有所振発而驅一世之民躋諸仁寿之域、庶幾可企踵而俟也、今識比撰著此編、以備存学医矩矱、後之任責医教者、亦可以資稽考焉、則其有裨於医林、不淺鮮也」。また、“浅田宗伯が盟友服部甫庵(1804～89)に宛てた明治8(1875)年9月8日付の手紙が国立国会図書館に収蔵されている。手紙には本書『医学典刑』に着手した想いを『詩経』大雅(蕩)の一節を引いて次のように述べる。「此の書は、維新後、漢医衰退し、吾が道將に地に墜ちんとす。浩嘆の余り相著わし候。謂う所は、老成の

人無しと雖も猶典刑有り、この意に在り。(原漢文)』”(解題より)という。すなわち、漢方の衰退を目の当たりにする中で、来たる復興の時を見据えて編まれた規範書が『医学典刑』である。また換言すれば、本書は浅田宗伯が考えた伝統的漢方を保存した書といえるであろう。この点においても、本書は現代の東洋医学およびその教育に大きく資するものと期待される。

あとがきによると、渡辺氏は『医学典刑』の訳注作業を行っているとのことで、こちらの公開も待たれる。

(天野 陽介)

[北里大学東洋医学総合研究所, 〒108-8642 東京都港区白金5-9-1, TEL. 03(3444)6161, 2015年1月, A5判, 568頁, 8,000円(税込)]